

社会への貢献

富士ソフトは、ICTを用いて持続可能な社会づくりに貢献していきます。

全日本ロボット相撲大会[®]

ロボット相撲とは、参加者の自作したロボットをカ士に見立て、技術とアイデアで対戦相手のロボットを土俵から押し出す競技です。当社は、「ロボット作りを通して『ものづくり』の楽しさを知ってもらう場を提供する」ことを目的に、国内最大規模のロボット競技大会「全日本ロボット相撲大会[®]」を1990年より毎年開催しています。

第25回となる今回は、2013年9月1日の北海道大会（北海道旭川市にて開催）を皮切りに、全国9ヶ所地区大会を開催します。約1,300台の“ロボットカ士”が全国各地で熱戦を繰り広げ、地区大会を勝ち進んだ128台が全国大会に進み、優勝者には文部科学大臣賞・杯が授与されます。さらに、海外5大会の上位入賞者と全国大会優勝者による「INTERNATIONAL ROBOT SUMO TOURNAMENT（プレ大会）」を併せて開催し、世界1位を決定します。

近年、当社が考案したロボット相撲大会は海をわたり、世界各国で様々なロボット相撲大会が開催されるようになりました。海外でも、相撲ロボットの制作はロボットテクノロジーの習得に適していると高く評価され、大会には大学生を中心とした参加者が出場しています。現在、海外で開催されている大会の総出場台数はおよそ年間1,000台に上ります。今や、「ものづくり」の精神は、日本だけでなく世界へと響き渡っています。

※大会の詳細については公式HP（<http://www.fsi.co.jp/robot>）にてご覧いただけます。

全日本ロボット相撲大会[®]

第25回



第24回全国大会

被災地支援（ボランティア）の取り組み

当社は、東日本大震災発生直後より復興支援プロジェクトチームを立ち上げ、復旧・復興に向けた支援活動に取り組んできました。より地域に密着した復興支援を行うため、2012年4月1日付で社内組織として「社会貢献室」を設置し、継続的な活動を行っております。また、より円滑に被災地の自立支援を行うために岩手県奥州市より当社の「社会貢献室」が特定非営利活動法人（NPO法人）の認可を受け、2012年11月に「特定非営利活動法人 I T工房ひのき」が設立されました。「I T工房ひのき」では、ICTを活用した各種復興支援に関する活動を行っています。

また、当社社員は、「I T工房ひのき」主催イベントを通して様々なボランティアに積極的に参加しています。最近では東日本大震災の被災地のみならず、山口県豪雨災害復旧支援を行うなど、活動の範囲を拡げています。

被災地支援（ボランティア）の取り組み

- 気仙沼市の社会福祉協議会様からの依頼により
「仮設商店街（復興マルシェ）のイベント」支援に参加
(2013年5月19日)
- 岩手県大槌町の仮設住宅の草刈りに参加
(2013年6月15日)
- 岩手県陸前高田市でお茶摘みのお手伝いに参加
(2013年6月16日)
- 岩手県陸前高田市でパソコン教室に指導員として参加
(2013年6月27日～28日)
- 山口県豪雨災害復旧支援に参加
(2013年8月11日～8月12日)



パソコン教室の様子



山口県豪雨災害復旧支援の様子

インプラント型再生軟骨事業

独立行政法人科学技術振興機構（JST）の企業向け公募プログラム「独自のシーズ展開事業・委託開発」に採択され、耳の軟骨から作製する鼻への移植用再生軟骨の実用化開発を実施しております。

この再生軟骨の細胞生存性と無菌状態を、三次元構造のまま長期間維持できる技術を世界で初めて開発しました。2016年度の治験終了及び事業申請を目指し、実用化に向けた申請手続きを推進していきます。

富士ソフト 株式会社
細胞プロセッシングセンター

